

先週・今週（9月24日から10月2日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態による資金調達ニーズが強く、出会いの水準は、利上げ前(0.976～0.978%)から、0.25%スライドされ1.226～1.228%が中心となった。

ターム物は、利上げが事前に織り込まれていたため大きな波乱はなかったものの、9月末を越える物は引き続きレートが高く、2W～1M程度で1.35～1.45%程度、2Mで1.35%～1.40%程度、3Mで1.40～1.45%程度での引き合いが散見された。期が明けてからショートターム物はやや落ち着き1W～1Mで1.35%程度、ロングターム物は次の利上げがやや意識され1.45～1.50%での出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、24日は国債の大量償還により418兆円程度に増加、その後30日までは概ね横ばいで推移し、1日は2年債の発行や税揚げの前倒し分により414兆円程度に減少、2日は税・年金保険料揚げ等により410兆円程度で着地する見込み。

●債券レポ市場

債券レポ市場GC T/N物の出会い水準は、概ね1.255%前後での推移となった。
SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

短国市場は、既発債は全ゾーン軟調に推移した。
25日に実施された3M物入札では、事前予想対比で甘めの結果となったものの、セカンダリーでは底堅く推移した。
10月2日に実施された3M物入札では、事前予想対比で強めの結果となり、セカンダリーでは堅調に推移した。

●CP市場

CP市場は、不動産、食料品、鉄鋼等複数の業態で大型発行が見られた。
市場残高は、9月中は25兆円台で推移していたところ、期末に向けた有利子負債圧縮の動きから9月末には23兆円台前半まで減少した。
発行レートは、9月の金融政策決定会合での利上げを受けて、1.25%を超えるレート水準での出会いが中心となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/24 (木)	65,513.99	3.075	157.96	1.227	1.250	4,176,400
9/25 (金)	66,364.20	3.075	158.73	1.227	1.250	4,182,100
9/28 (月)	65,877.62	3.085	157.75	1.227	1.250	4,179,800
9/29 (火)	65,481.27	3.085	157.42	1.227	1.250	4,174,300
9/30 (水)	66,753.72	3.060	157.35	1.226	1.250	4,166,500
10/1 (木)	68,956.72	3.095	158.15	1.227	1.250	4,140,100
10/2 (金)	68,309.46	3.100	158.08	1.227	1.250	4,095,200

翌週（10月5日から10月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/5 (月)	*10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) *需給ギャップ・潜在成長率(日銀 14:00)	交付税借入 10/16借入 12,000億円	*9月のISM非製造業景況指数
10/6 (火)	*植田日銀総裁挨拶(全国証券大会 15:35)	10Y物 10/7発行 26,000億円	
10/7 (水)	*9月のオペレーション(日銀 8:50) *9月の日本銀行の対政府取引(日銀 8:50) *9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) *8月の消費活動指数(日銀 14:00頃) *9月のコール市場残高(日銀 15:00)	17年債借入 10/20借入 5,415億円	*米FOMC議事要旨
10/8 (木)	*8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) *地域経済報告(さくらレポート 日銀) *支店長会議における報告(日銀) *4-6月期の業種別・地域別直接投資(日銀 8:50)	TDB6M物 30Y物 10/13発行 10/9発行 30,000億円 6,000億円	
10/9 (金)		TDB3M物 10/13発行 33,000億円	

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/5 (月) 日銀予想	900	9,300	10,200				0	10,200	TB3M発行▲35,000 償還38,000
10/6 (火) 弊社予想	500	1,000	1,500				0	1,500	
10/7 (水) 弊社予想	200	▲23,000	▲22,800				0	▲22,800	10Y発行▲26,000
10/8 (木) 弊社予想	▲300	0	▲300				0	▲300	
10/9 (金) 弊社予想	200	▲5,000	▲4,800				0	▲4,800	30Y発行▲6,000 交付税特会借入▲13,000 償還13,000

●短期金融市場の見通し

無担保コールON物は、概ね1.227%程度での推移が予想される。ターム物については、市場参加者の10月もしくは12月の利上げ思惑が働く中、レート動向が注目される。債券レポ市場は、GC T/N物のレートは1.255%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、8日(木)に6M物、9日(金)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、五・十日発行が予定されており、発行案件がどこまで膨らむかが注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では5日(月)に10月の日銀当座預金増減要因見込み、需給ギャップ・潜在成長率、6日(火)に植田日銀総裁挨拶(全国証券大会)、7日(水)に9月のオペレーション、9月の日本銀行の対政府取引、9月のマネタリーベースと日本銀行の取引、8月の消費活動指数、9月のコール市場残高、8日(木)に8月の国際収支、地域経済報告(さくらレポート)、4-6月期の業種別・地域別直接投資などが公表予定である。海外では5日(月)に9月のISM非製造業景況指数、7日(水)に米FOMC議事要旨などが公表予定である。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く場合があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入